

NPハワイ研修で 学んだこと・考えたこと

Considered through the Visit Related to Nurse Practitioner in Hawaii

佐藤幸子

山形大学医学部看護学科

I. はじめに

わが国におけるNurse Practitioner（以下NP）教育は、2008年に大分県立看護科学大学において開始され、現在は10の大学院でNP教育が行われている。NPは、「日常的な臨床検査も実施しながら患者さんの状態を包括的にアセスメントし、必要な患者さんに対しては、薬物の処方もできる看護職」と定義されている¹⁾。総合病院の外来、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、介護老人福祉施設等で、個々の患者さんに対して、包括的健康アセスメント（血液検査、心電図等の日常的な臨床検査も実施しながら、その結果を判断すること）を実施し、必要な場合には、医療処置管理（すでに処方されている一定の範囲内の薬物をNPの判断で継続して処方すること等）もできる。すなわち、ケアとキュアを同時に提供できる能力を備えた看護職と考えられている¹⁾。アメリカにおいてはすでに1965年に教育が開始され、現在では社会的にも高く評価され、活発な活動を続けている。

わが国は少子高齢化が進み、医師の不足や偏在化が今後さらに加速することが予想され、その中でNPのような働きをする職種が効果的な役割を果たすと期待されている。

日本において修士課程でのNP教育を行う大学院がなかなか増加しない中で、なぜアメリカではNPが発展を続けているのか、どのような働きが社会に受け入れられているのか、アメリカのNPの課題は何なのかを知ることは、今後の日本におけるNP教育を行う上で重要であると考え、今回の研修に参加した。

また、一方でわが国においては、ミニドクターになる

のではないかと、医療上の責任は取れるのか等、アメリカのようなNPが導入されることに対して不安視する意見も聞かれる。その不安に対しても教育を担っている者として説明できるようにする責任があると認識している。

今回、短期間ではあったが、NPが実際に活動している病院やクリニックを視察し、様々な刺激を受け、考えることも多かった。その研修内容と、学んだこと考えたことについて紹介する。

II. NPハワイ研修の概要

今回のハワイ研修は、日本NP教育大学院協議会の主催で、ハワイにおけるNPの活動に実際に学ぶために、日本各地から17人の参加者により実施された。

研修はハワイ在住の日本人NPの自宅での講義から始まった。日本のNPの現状やアメリカにおけるヘルスケアシステムや医療制度及びNPの制度について講義を受け、概要を理解してから2日目以降の病院等の視察を行うことができたため、それぞれの施設の特色を踏まえてNPについてより深く理解することができた。研修日程を表1に示す。

III. アメリカにおけるNP制度の概要

アメリカでは高度実践看護師（Advanced Practice Registered Nurse以下APRN）としてNP、専門看護師（Clinical Nurse Specialist以下CNS）、助産師、麻酔看護師がいる。患者に直接ケアを行うための高度な臨床的知識と技術が必要とされる。

アメリカにおけるNPの活動は1965年にコロラド州

表1 NPハワイ研修の主な研修施設と内容

1日目	午前	講義1	日本におけるNPの現状と日本NP教育大学院協議会 (草間朋子日本NP教育大学院協議会理事長)
	午後	講義2	アメリカのヘルスケアシステム(ハワイ在住日本人NP)
		講義3	アメリカの医療制度(ハワイ在住日本人NP)
2日目	午前	視察1	Tripler Army Medical Centerの視察
	午後	視察2	Aloha Nursing & Rehabilitation Centre 高齢者施設におけるNPの役割(成人・老年NPによる講義)
3日目	午前	視察3	Waianae Coast Comprehensive Health Center センターにおけるウィメンズヘルスのNPの活動, NPレジデ ンシープログラム(ウィメンズヘルスのNPによる講義)
	午後	視察4	Kapiolani Women's Center 女性と子ども病院におけるNPの活動(ファミリーNPの講義)
4日目	午前	視察5	Queen's Medical Center リエゾン, 血糖管理及びホスピタリストについて(ファミリーNP, 老人NPによる講義)
		視察6	ドラッグストア内のMinut'es ClinicにおけるNPの活動 (ファミリーNPによる説明)

の小児科医の不足がきっかけで始まった。小児科医であるHenry Silverが公衆衛生の看護師であり教育者であるLoretta Ford看護師に対して、熟練した看護師を育てるための教育を行い、プライマリケアの提供者になることを提案した²⁾。

現在ではアメリカに24万人以上のNPがおり、その数は10年前に比べて2倍に増加している。US NewsのBest Job Rankingで4位となったほどの人気の高い職業となっている。医療の現場、それから社会的にも受け入れられてきている証である。

1. NPの定義と認定・免許について

NPはAPRNとして患者の診察、薬の処方、検査や処置のオーダーや医療行為ができる看護師であり、修士課程あるいは博士課程のプログラムを修了しNPの認定証と州の発行する免許を保持するものをいう。認定証を発行する認証機関としては、アメリカ全体でThe Ameri-

can Nurses Credentialing Center (ANCC) と American Association of Nurse Practitioners (AAPRN) の2つの機関がある。認証試験を受験し合格したものにNPとしての認定証が授与される。試験は多肢択一式で2つの機関の間で出題数の差はあるが、臨床的な判断に関する問題が多くを占めているとのことだった。NPとして働くためには州毎のNPの免許を取得する必要がある。

2. NPの裁量権

NPの裁量権は州によって異なるが、およそ3つのレベルに分類される³⁾。NPの裁量権についてはBoards of Nursing (BON) で規制されており、最も裁量権のあるものはFull Practiceレベル(図1の青色)であり、医師の監督、委任、相談、または協力の要請や認証なしに、完全で自律的な実践と処方権が認められている。ハワイ州は最も裁量権が認められている州であり、ハワイ

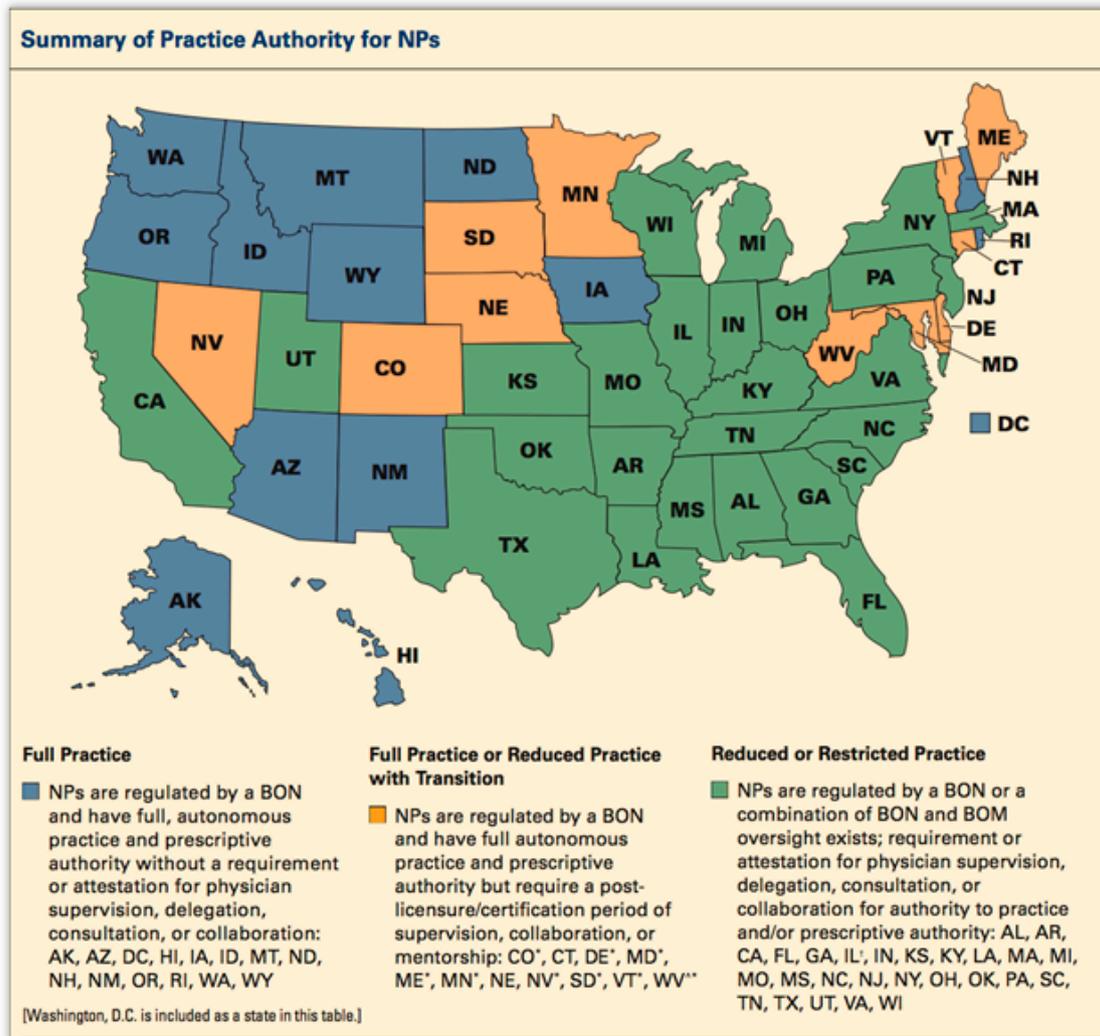


図1 アメリカのNPの権限について

3) より引用

も含めて13の州がこれに含まれる。ハワイ州法 Chapter 457-8.5-8.9⁴⁾ に APRN (NPを含む) 権限が定められており、自分でクリニックを持つことができ、麻薬を含む処方権が認められている。検査や治療、他科への紹介ができ、死亡診断書以外であれば診断書等健康に関する全ての書類にサインが出来るとのことだった。ハワイ州がこのような広い範囲の権限が認められている理由のひとつに、医師不足に加えハワイ州は島が多く患者の医療機関へのアクセスの悪さが背景にあるとのことだった。

2番目のレベルは Full Practice or Reduced Practice with Transition (図1のオレンジ色) で、完全に

自律的な実践と処方権が認められているが、ライセンス／認定後医師の指導や協力、指導期間が必要とされている。コロラド州等11の州がこれに含まれる。

最も権限が制限されているのが Reduced or Restricted Practice レベル (図1の緑色) で、NPの権限は BON または BON と Boards of Medicine (BOM) の組み合わせで規制されており、実践や処方に対して医師の監督、委任、相談、または協力が必要とされる。カリフォルニア州等残りの州が含まれる。

3. NPの働く場と専門分野

NPの働く場所等としては、ヘルスケアセンター、グ

ラントプログラム、プライベートプラクティス、薬局に併設されているクリニック、入院病棟、救急外来、病院外来等がある。

NPの専門分野として、Queen's Medical Centerの老人NPは表2のように示した。プライマリスペシャリティは基本的な分類であり、より専門化したものがアドバンストスペシャリティとしてあげられていた。NPも自らの経験を通して働く場に応じて専門分化しているように思われた。

4. NPの活動成果

NPの活動の成果として、①病院のコストを削減することができる、②保険会社のコストを削減できる、③医療のクオリティが高まる、の3つがあげられる。

①については、医師の給与よりもNPの給与の方が安いために人件費を削減できるということであった。ハワイの1例であるが、NPの給与は医師の給与の6割程度とのことである。コストの削減だけでなく医師は医師としての高度かつプロフェッショナルな業務を遂行できるメリットも大きいとのことであった。

②はNPが提供するサービスのほうが診療費が安く、また、多くの医療提供者の存在により、予防や早期発見が可能となり重症化の防止につながることがあげられていた。わが国においても、老人保健施設の調査においてNPが施設で勤務することにより、救急車の要請が半減したというデータもあり⁵⁾、医療費を民間の保険会社が支払うことが一般的となっているアメリカにおいては、保険会社のメリットは大きいものと思われる。

③については、NPは予防的な健康教育についても時間をかけて行うために、患者の健康の維持が促進されることや、患者の話を時間をかけてよく聞くことにより満

足度が高まることがあげられていた。

IV. 視察した各施設におけるNPの活動

1. Aloha Nursing & Rehab Centre

Aloha Nursing & Rehab Centreは140床ほどからなるナーシングホームで、長期入所とショートステイを受け入れている。ナーシングホームでは通常1~2名の看護師と看護助手による看護が行われており、医師やNPは常駐せず、30日に1回の訪問と診察が義務付けられている。それ以外にも連絡があれば必要に応じて訪問診察が行われる。

このセンターを担当するNPは成人・老年NPであった。NPはまず入所者の既往歴、医学的診断、精神健康状態や看護ケアの問題をレビューし、検査を指示し、必要な処方を行い、治療の調整を行う。カウンセリングの技術は高いとのことであった。

入所者の疾病としては、感染症や慢性疾患が多く、皮膚のトラブルや認知症やパーキンソン等の神経学的疾患が増加している。これらの管理は高齢者の特徴を踏まえたものとなっている。例えば糖尿病であれば、厳密な血糖のコントロールよりも低血糖等の予防が重要であり、目標とするHbA_{1c}の値も成人とは異なってくる。

高齢者の症候として、転倒、体重減少、老衰、認知症や他にも薬の副作用や嚥下障害、エンドオブライフの課題、適切でないアドバンス・ディレクティブ（将来自らが判断能力を失った際に自分に、行われる医療行為に対する意向を前もって意思表示すること）等の問題がある。NPは家族やスタッフが、患者の予後や患者の希望に合ったゴールを理解するための役割も担っている。

高齢者の施設では、NPには治療や処置への患者自身

表2 NPの専門分野

プライマリ スペシャルティ	アドバンスト スペシャルティ
小児科(子ども)	老年学
ウィメンズヘルスケアNP	がん
ファミリーNP	糖尿病
成人・老年NP	産業保健
成人・老年急性期ケアNP	緩和&ホスピス
新生児NP	

の意思決定への支援や家族のサポート等ホリスティックなケアが求められており、時間をかけて話を聞き、本人の意思に添った治療や処置を計画していくことが求められている。NPはベースが看護師であるために、患者の苦痛や悩み・心配事を医療関係者や家族の調整をしながら支援していくことを得意としている。高齢者に対しては治療と生活管理とを統合して行う必要があるためにNPの存在が重要になってくると思われた。

2. Waianae Coast Comprehensive Health Center

Waianae Coast Comprehensive Health Centerは、自然の美しいワイアナエ海岸にあるヘルスセンターで、サービスの内容としては、救急、内科、歯科、家族計画、ウィメンズヘルス、小児科、フィットネスジム、健康教育、栄養カウンセリング、ホームレスへのケア等がある。薬局、放射線検査室、食堂や散歩道等も併設されている。またハワイアンヒーリングセンターを設置する等総合的なヘルスセンターとなっている。

ハワイ州の中で一番大きなコミュニティヘルスセンターで、年間37,000名以上の患者にケアを提供している。患者層の65%は貧困層（メディケアの対象者）で、ヘルスセンターの存在は、地域全体の健康促進だけでなく地域経済の活性化にも貢献している。

センターには45名の医師と37名のNPが勤務し、教育機関としての役割も持ち、NP学生、歯科医学生、医学生、心理学生に対する臨床実習の場を提供している。また、2015年よりNPレジデンシープログラム（NP課程修了後の研修）を開設した。

ウィメンズヘルスに所属する日本人のNPの方からは、ウィメンズヘルスのNPの活動を中心に紹介してもらった。ウィメンズヘルスの部門はすべてNP（11人）で運営しているが、ハワイ大学医学部の教授（産婦人科医）とコラボレーションして、月に一回全てのクリニックで働いている医師とNPを含めてのミーティングや勉強会を継続していた。

NPとしての活動内容としては、妊婦健診、避妊カウンセリング、婦人科健診、不妊検査・治療、性病検査・治療、婦人科疾患の診療が主であるが、インフルエンザ、風邪、喘息、高血圧、糖尿病の診療や身体検査予防接種も行っていた。

ウィメンズヘルスの場では、予防医学的な活動や教育

的な活動、カウンセリング的なかわりが重要であり、産婦人科の医師不足もあり、看護師をベースとして診療も行うことのできるNPとしての機能が求められていると思われた。

3. Kapiolani Women's Center

Kapiolani Women's Centerは1890年にマタニティホームとして発足し、1909年に設立された子ども病院と1978年に統合されてできた、ハワイ州で唯一の女性と子どもの病院である。243床からなり、女性と新生児97床、小児科146床となっている。女性に対しては、妊娠出産、成人ICU、内科的疾患、外科的疾患、婦人科がん、胎児診断、乳がん等、子どもに対しては、一般小児疾患、小児がん、心疾患、PICU、NICU、救急、外来等のサービスが提供されている。NICUやPICUが全床個室となっている。

ウィメンズヘルスクリニックで働くファミリーNPの方から説明を受け、乳腺外科のクリニックでは、患者の乳がんスクリーニング、症状に基づく訪問診療、がん患者のサービスの調整、術後管理、術後のフォローアップを行っているとのことである。腫瘍内科では、治療を終了した患者や維持療法を行っている患者の再発に対するサーベイランス、治療中の患者の症状管理を行う。サバイバーに対しては、乳がんの米国認定プログラムのガイドラインに示されたサバイバーケアプランの適応について判断し、個々の患者にあわせたケアプランを策定する。そのケアプランには、行っている管理やスクリーニングテストに対する提案や治療の長期効果に対する情報提供が含まれる。また、ハイリスクブレストプログラムとして乳がんのリスクが高い女性に対し、予防方法を明確にする等、様々なサービスを行なっている。病歴の把握と健康診断、乳がんリスクの推定、マンモグラフィ、超音波、MRI検査、遺伝子検査、予防的な化学療法、栄養についての指導と助言、精神的サポート、リスクを低下する方法についての教育が行われていた。

これらの支援にも看護師をベースとした日常生活への支援やカウンセリング的なかわりができ、かつ予防的なかわりや症状管理ができるNPの機能は有効であると考えられる。

4. Queen's Medical Center

Queen's Medical Centerは、ホノルルのダウンタウンにある、ハワイ及び太平洋にある最もクオリティの高い総合病院である。1859年にハワイ王朝のエマ女王とキング・カメハメハIV世が設立した。

Queen's Medical Centerで働くAPRNとしてはNPとCNSと麻酔看護師がいた。入院患者に対しては心臓、老年学、ICU、神経科、糖尿病、精神科、外傷、緩和ケア等の場でAPRNは活動している。外来では各診療科のほかに産業保健やがんセンターでも働いている。

リエゾンチームのAPRNも州法で認められた権限で活動している。サービスの内容には、行動学的管理、服薬管理、治療的サポート、教育、支持的カウンセリング等が含まれ、治療的介入は個別的であり、個人のニーズに基づいている。自殺のリスクの高い人をスクリーニングすることも重要な役割となっている。リエゾンにおいても、支持的なカウンセリングと服薬管理をNPが時間をかけて患者の状況を理解しながら実施することは、過剰な薬の投与を避けることができ、また患者満足度も高まると考えられる。

ホスピタリストは、日本では総合診療医と訳されることもあるが、コストの抑制や患者の意識の高まり、そしてケアの質の保証等のヘルスケアシステムの変化の中で作り出されたニーズである。ホスピタリストの主な役割は①質の向上②管理③研究の成果④実践のガイドライン

の開発である。この10年間にホスピタリストの役割は拡大し、勤務表やICU、コードブルーの対応等と多様化している。Queen's Medical Centerではかつてはホスピタリストのほとんどは医師であったがAPRNも現在ホスピタリストとして活躍しているとのことであった。APRNとしての実践力が評価されている証であると考えられる。

5. Minute Clinic

全米チェーンの薬局CVSに設置されている診療所がMinute Clinicである(図2)。その診療所は年中無休で診療が可能となるよう、複数のNPが1人ずつシフト制で診療を行っており、予約不要で受診しやすくなっている。受付はミニツクリニックの入り口に設置されたコンピューターで来所者が行う。保険の適用についてもすぐ検索することができる。受診者は風邪や呼吸器系の病気、慢性疾患の患者が多く、丁寧な問診とフィジカルアセスメントを行い、簡単な検査も可能である。診察後は必要な薬物を処方してもらい薬局で薬を入手することができる。予防接種も行い、患者一人当たり30分から40分かけて診察を行う。クリニックで対応困難なときは病院に紹介するシステムになっている。私たちが訪問したクリニックのNPは週30時間勤務で給与もよく、自分のライフスタイルに合った働きができると話していた。博士の学位を取得し、ハワイパシフィック大学で教育にも携わっているとのことだった。



図2 全米チェーンの薬局内に設置されているMinute Clinic

患者や住民が気軽に受診でき、風邪等の診察や検査ができる点や自分の都合のよいときに予防接種ができるため、とても便利な存在であり、NPの活躍の場であることを実感した。

IV. NPについて学んだこと考えたこと

1. NPの裁量権について

ハワイ州では、NPの裁量権はFull Practiceレベル、すなわち医師の監督なしに自律的な実践と処方権が認められていることを聞いた時に、それでは医師とNPの違いは何かと不思議に感じた。しかし、「医師には高度な医師にしかできない専門性の高い仕事に専念してもらう」という発言や、「NPは自分ができないことをよく理解する必要がある」との言葉から、NPの行う医療の範囲はおのずと決まってくるものであることが理解できた。また、「NPは時間をかけて患者の話をよく聞く」等、働き方も医師とはかなり異なることも研修に参加して実感できた。NPは看護をベースに、予防的・教育的な関わりや、カウンセリング的な関わりをしながら、必要な診断や処方を行い、それが患者の満足度を高める結果につながっていると考えられた。

一方、医師のような高度な医療は行わないとしても、医師の監督なしに自律的に実践ができるということは、責任も生じてくる。日本の看護師は常に医師の指示、監督のもとに医療を提供しているので、これはとても大きな意識の違いである。訴訟社会のアメリカにおいて、訴訟を避けるためにもNPとして患者によく理解してもらうために十分な説明をするようにしているとのことであった。裁量権を持つということは責任を果たす責務もあり、NPはその覚悟をもつ必要があり、教育担当者としては、相応な教育を提供していく責任があることを実感した。

2. NPの専門分野について

表2に示されるように、アメリカにおいてNPの専門分野は、コンセンサスモデルで基本的に統一され、すっきりした印象を持っている。まず、基本に立って、その上で個々のアドバンスをどう活用していくかが、NPの更なる進化、発展につながることを期待される。アメリカにおけるNPの活動は、医師不足から始まったという

ことであるが、今回の研修で様々な領域におけるNPの活動を目の当たりにすると、NPはアメリカ社会でしっかり定着し、今後ますます様々な場所でその働きが期待されてくるのではないかと思われた。また、教育制度もマスターからドクターに移行していることもあり、NPとしての活動が複雑化することも考えられる。

日本では、看護師の特定行為研修が制度化され、増員が進められているが、認定看護師、特定行為研修を受けた看護師等が存在する中で、NPとの概念的整理が必要となってくるのではないかと思われる。そのためにも、現在、日本看護協会が中心となって、看護界におけるNPの在り方を検討されていることは重要な意味を持つものと考えられる。

また、ハワイ州において人々のニーズに応じて各専門分野のNPの働き方が発展してきたように、日本においても日本のニーズに応じたNPの役割機能を充実させることが地域住民にも他の医療者にとっても重要であり、NPの発展にもつながると思われる。特に看護がこれまで大事にしてきた生活の視点や不安や心配事を受け止める機能などと、これまで以上の医学的臨床判断を兼ね備えることにより、これまで医師も看護師も対応できなかった両者の境界領域のニーズを満たすことができるのではないかと考える。

V. おわりに

この度、NPハワイ研修に参加したのは、私の所属する大学院においてもNP教育を開始したこともあり、NPの活動の実際を知り、今後の教育や修了生の支援に役立てたいと思ったからである。研修に参加して、実際にNPの方から講義を受け、活動の一端を実際に見せていただくことができ、これまでよくわからなかったことが理解でき、本当に良い機会となった。今後の教育に活かしていきたい。

本研修に参加するに当たりお世話になった皆様、投稿に際しご助言をいただきました日本NP教育大学院協議会会長草間朋子先生に心より御礼申し上げます。

本論文に関して開示すべきCOI関係にある企業等はなかった。

文献リスト

- 1) 草間 朋子：【「多職種連携」&「業務分担」の最前線 医師・看護師不足をいかに補うか】「多職種連携」と「業務分担」で医療のあり方を見直す。保険診療, 64 (7) : 31-39, 2009.
- 2) レンデンマン 美智子：アメリカにおけるNPとCNSの役割と責任. 日本小児看護学会誌, 25 (3) : 116-120, 2016.
- 3) Susanne J.P. : 30th Annual APRN Legislative Update: Improving access to healthcare one state at a time. The Nurse Practitioner, 43 (1) : 27-54, 2018.
- 4) <https://law.justia.com/codes/hawaii/2010/division2/title25/chapter457/>
- 5) 小野美喜：大学院修士課程におけるNP課程修了生の活動と成果. 看護科学研究, 14 (1) : 14-16, 2016.